

令和５年度みえの学力向上県民運動推進会議を開催しました

令和５年度みえの学力向上県民運動推進会議を開催し、令和２年度から令和５年度までの主な取組の成果と課題を総括し、令和６年度からの「みえの学力向上県民運動 基本方針（案）」について協議しました。

１ 日時 令和６年１月３１日（水）１４時３０分から１６時００分まで

２ 場所 ＪＡ三重ビル５階 大会議室

３ 内容

（１）三重県教育委員会教育長挨拶

（２）協議

<論点>

- ・これまでの取組の成果と課題をふまえた「みえの学力向上県民運動 基本方針（案）」について

<協議での主な意見>

（柱１）「主体的・協働的に学び行動する意欲」を育てます

- 全国学力・学習状況調査の結果が全般的に右肩上がりになっていることから、みえの学力向上県民運動は中長期的にみると成果が出ている。
- 子どもたちの興味のあるもの、調べたいものを学習の核に据えて、国語や算数、英語等の学習内容を活用しながら、主体的に学習を進める方法である「探究」の取組が効果的だと考える。
- 「自律的な学習者」を育成するために、子どもたちが学校の行事を仕切る、学校のルールをつくるなど、自律的な姿につなげる場面設定が効果的だと考える。
- 子どもたちが自ら目標を定めるうえで、「前の自分よりもどれくらい向上していくか」に着目して目標を立てていく指導が大切だと考える。
- インクルーシブ教育の視点から少人数指導における子どもたちのコースを固定することで、さまざまな弊害が起きることが予想される。少人数指導を行わなくても、取組方法を工夫することで、学力向上を図ることが可能だと考える。
- 習熟度別少人数指導を行うことで、子どもたちの学習内容の理解が進んでいる。子どもたちが学習内容を理解できた喜びが、学習意欲につながっている。

(柱2)「学びと育ちの環境づくり」を進めます

- OECD の PISA 調査の結果から、スクリーンタイムが長ければ長いほど学力が下がっていると指摘があった。スクリーンタイムが自然と減っていくように、子どもたちがゲームをしたり動画を視聴したりする時間を減らす取組よりも、他にもっと夢中になれる取組を進めることが効果的である。子どもたちの好奇心や知りたいと思う気持ちを大切にしたい探究的な学びを進めることができる環境づくりが必要である。
- さまざまなチャレンジをしている校長や学習指導要領を軸に前向きなチャレンジをしている教員をサポートできるよう、社会総がかりの構造をつくる必要がある。

(柱3)「読書をとoshた学び」を進めます

- 子どもたちの読書をとoshた学びがスタートできるよう、学校図書館を利用しやすくしたり学童での読書や学級文庫を充実したりするなど、身近なところに本のある環境をつくる必要がある。
- 子どもたちが言葉を用いて自分を勇気づけたり、自己肯定感を高めたりする活動を通じて、自律した学習やウェルビーイングの実現につなげることができる考える。自分を励ます言葉を本から学んだり、本を介して人とつながったりすることで学んでいく必要がある。
- 幼児教育の視点から、言語化することが大切だと言われている。子どもが物を見て指をさしたときに、周りの大人が言語化して伝えていくことが読書の入り口になるのではないかと考える。